



宇都宮健児さんとともに 都政を変えよう三多摩決起集会



6月11日、北多摩西教育会館・大会議室にて、革新都政をつくる会・三多摩連絡会主催の「宇都宮健児さんとともに都政を変えよう三多摩決起集会」を開催しました。

「市民と野党の共闘」の候補者がなかなか決まらない中、宇都宮さんが立候補を表明し、立憲民主党、日本共産党、社民党、新社会党、緑の党が宇都宮さんの応援を決めた中で、三多摩での宇都宮さん応援の決起集会となり、都知事選が事実上スタートしました。

三多摩ではすでに、各地域で、市民そして各種民主団体、労働団体など勝手連的に、今の都政を転換しようと、スタンディングなど駅頭宣伝行動を始められています。

決起集会で、開会の挨拶に立った三多摩労連議長の芳賀次郎さんは、『東京では、知事選で、なかなか「市民と野党の共闘」ができなかったが、今日が出発点、大きな一歩になる』と。

情勢・争点の話は、革新都政の会の末延渥史さん。今回の都知事選の意義など話され、石原都政から続いてきた新自由主義の弊害から、あたりまえの自治体の本旨・都政をとり戻すことだと。

そして、三多摩連絡会の窪田一忠さんから、「都知事選を、日本を変える希望のたたかいに！」と行動提起がありました。

参加者からは、医療現場、教育現場、そして、横田基地問題からの発言に続いて、5人の方から宇都宮さんへの励ましの発言などがありました。

最後に、東京地評での決起集会から駆けつけてくれた宇都宮健児さんは、大きな拍手に包まれ、元気に登壇し挨拶されました。まず出馬を決意するに至った経緯を詳しく話され、さらに、今度の選挙は、都民一人一人の生存権がかかった選挙であること、コロナ後のこれからの世界が問われていると。経済・効率優先からの転換、自己責任社会からの転換などの必要性を話されました。そして、都の闘いは、必ず国政に影響すると、選対の状況も弱小からだんだん大きな団体になってきましたと訴えられました。さらに、行政が最優先で取り組んでいかなければならないことを訴えていくことが大事と。最後に、本当に、都政を変えるチャンスである、ぜひ皆さんと一緒にと訴えられ、大きな大きな拍手に包まれ三多摩での選挙戦がスタートしました。

参加者は、コロナ感染対策のため、マスク着用、予約登録制として、参加定員を80名にしましたが、ぴったりの、80名でした。また、三多摩過半数の地域からと40を超える団体・組織からの参加者となりました。



情報をお寄せ下さい。上段表示のメール宛、もしくはFAXでしたら 042-523-3320へ